



3/13 第6回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式



堂々と卒業証書を授与されました



最後の学活「みんなありがとう」



門出・強く、高く未来にはばたいてください！

3月13日、学校のリーダーとして様々な場面で「みなみプライド」を示した26名の卒業生の皆さんが、力強く誇り高く未来へ羽ばたきました。今年度は、4年ぶりに在校生全員、そして、来賓の方々が参列し、厳粛な雰囲気の中で卒業式を行うことができました。卒業生の皆さんが、堂々とした態度で卒業証書を手にする姿は、とても感動的でした。また、在校生も、卒業を祝う気持ちがあふれていて、立派な態度で式に臨むことができました。卒業式は、1年で一番大きな行事の一つです。ここでまた、子どもたちの大きな成長を感じることができました。

卒業生の皆さんは、義務教育9年間で、仲間の個性を尊重するとともに、互いに認め合うことをしっかり学び、仲間との絆を深めていきました。これからは、みなみ学園で過ごした日々を心の支えにし、勇気を出して挑戦を続けてほしいと願っています。人と比べるのではなく、「なりたい自分」に向かって、自分のペースで、自分らしく成長してほしいです。卒業生の皆さんに、たくさん幸せが訪れますように！これからうれしいことがたくさんありますように！

ご卒業、おめでとうございます！





第6回 みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式 式辞

希望の光あふれる春の佳き日に、義務教育9年間を修了し、凜とした姿で、未来へ羽ばたこうとしている26名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。一年生から八年生までのみんなで、みなさんの卒業を祝いたしたいと思います。また、本日は来賓として、学校運営協議会会長 中村直人様、PTA会長檜佐真由子様にもご臨席いただいております。ありがとうございます。

卒業生の皆さん、皆さんがまもなく後期課程生になるというという6年生の冬に、新型コロナウイルス感染症の流行が始まりました。皆さんの前期課程修了式は、予定を大きく変更せざるを得なく、3月31日に行ったことをおぼえていますか？あれから3年。様々な制約の中での3年間でしたね。悔しかったこと、残念だったこと、悲しかったことなどたくさんあったと思います。それでも、皆さんは、「何ができるだろう。」と考え、前向きに行動してきました。

みなさんは、様々な場面で下級生の手本となる行動を示しました。部活動壮行会や児童生徒総会などでの活躍の姿を、後輩たちは憧れと尊敬のまなざしで見つめました。また、みなみスポーツフェスティバルでのみなみソーランやみなみフェスティバルでの合唱では、仲間とともに心をつないで一生懸命取り組む姿があり、多くの人に感動を与えました。みなさんの模範となる姿は、後輩たちにも必ず引き継がれていくことでしょう。

そして、私の目と心に焼き付いているのは、何と言って皆さんの仲の良さです。仲間にエールを贈る、声をかける、拍手を送ることは皆さんの日常であり、帰りには、仲間と一緒に笑顔で下校していきましたね。何度か皆さんのクラスでお話をする機会がありましたが、いつも皆さんは温かく迎えてくれて、とても居心地がよかったです。これは、きっと、1年生の頃からクラス替えがなく、ずっと一緒に同じ景色を見る中で、一人一人の個性を尊重し、互いを認め合うことをしっかり学べたからだだと思います。私は、みなさんのたくさんの長所の中で、この「一人一人の個性を尊重し、互いを認め合う」ところは、これからたくさんのお会いが待っているみなさんに、きっと幸せをもたらしてくれると思っています。



これから未来に羽ばたくみなさんに、大切にしてほしいこととお話しします。それは、「お家の方々が大切に育ててくださった命を大切にすること」。これは絶対です。そして、「勇気をもって挑戦すること」。昨年のサッカーワールドカップで、日本は、クロアチアにPKの末、惜しくも敗れましたね。このことについて、「難しい判断、悩ましい判断に迫られたとき、PKを蹴ることができる人になってほしい。PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持った人だけ。」という若者へのエールを新聞記事で見かけました。皆さんは、皆さんの人生の主人公です。失敗したとしても、怖くて震えても、一歩踏み出す勇気をもってほしい。そうすることで、今まで見えなかった新しい景色が見えてくるのだと思います。つらい時にはこのクラスを思い出し、心の支えにして、歩みを続けてください

さて、みなさんに宿題を出します。皆さんの先輩にも去年出しました。一番時間がかかるし、一番一生懸命取り組まないといけない宿題です。「幸せになること」。締め切りは、いつでも大丈夫です。

改めまして、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。生まれてから十五年間、いろいろなことがあったと思います。共に喜んだこと、励ましたこと、慰めたこと、叱ったこと。特に、この後期課程の三年間は、コロナの心配とともに、悩みも多き多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。けれども、子どもたちは保護者の皆様の愛情に支えられ、こんなに立派に成長しました。どうぞこれまでがそうであったように、これからも子どもたちの一番の理解者であり、心の居場所であっていただけたらと思います。

最後になりました。卒業生の皆さん、みなみ学園義務教育学校は皆さんの母校です。輝く未来に向けて、このみなみ学園で過ごした日々を心の糧にして、勇気を出して、羽ばたいてください。皆さんの前途に、幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

第6回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶



春の暖かな日差しを、体で感じることができる季節となりました。

今日のよき日に、私達26名は、みなみ学園第6回卒業生として巣立っていきます。

振り返ると、みなみ学園で過ごした時間は、数字で表すととても長いですが、体感的には短く、いざ卒業となると、とてもさみしく感じます。後期課程に進級するとともに流行したコロナウイルスによって、日々の生活は大きく変化しました。中学生になることへの不安と感染防止のための制限がある日々ストレスを感じることもありましたが、先生方やクラスメイトの温かさに支えられ、乗り切ることができました。

8年生になる頃、少しずつですが制限が緩和され、学校行事が行われるようになりました。猪苗代でのスキー宿泊学習は、真っ白な銀世界の中、声をかけ合い、笑い合いながらかけがえのない1泊2日を過ごしました。

最高学年となった今年の1年は、あっという間に過ぎていきました。何気ないクラスメイトとの雑談が、とてもいとおしく感じられます。みなみフェスティバルでは、「絆〜つなぐ〜」というスローガンを胸に、よりよい合唱にしようと協力して練習に取り組んだ「虹」は、スローガンを体現し、今までで一番の歌声を響かせることができました。

このような充実した学校生活を送ることができたのは、私たち一人一人に寄り添って導いてくださった先生方、背中を押してくれた家族、懸命に私たちを引っ張ってくださった先輩方、部活動や行事を盛り上げようと、一緒になって支えてくれた在校生の皆さんのおかげです。心から、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。在校生の皆さんには、これまで築き上げてきた伝統を受け継ぎ、さらに皆さんの個性をプラスして、みなみ学園を盛り上げて行ってほしいです。

最後になりますが、本日お忙しい中、私たちのためにお越しくくださったご来賓の方々にお礼を申し上げ、皆様の健康とみなみ学園のますますのご発展をお祈りし、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

令和5年3月13日

笠間市立みなみ学園義務教育学校第6回卒業生代表

筒井 琴子



義務教育9年間無欠席を讃えました

平成26年春、南小学校に入学し、平成29年春、みなみ学園4年生になり、令和5年春にみなみ学園を卒業した9年生。櫻井蒼大さんと根本琉衣さんは、義務教育9年間1日も欠席することなく（インフルエンザで出席停止になったことはあるそうです）、元気に学校に通いました。「心と体の健康に留意し、なりたい自分に向かって歩いていってください。これからも応援しています。」とエールを贈り、讃カードを授与しました。

おめでとうございます。



(文責：野尻)